

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆12月消費者心理、5カ月ぶり低下 基調判断は「持ち直し」維持

・内閣府が発表した2025年12月の消費動向調査で、消費者態度指数(2人以上世帯、季節調整値)は前月より0.3ポイント下がり37.2だった。5カ月ぶりに低下した。基調判断は「持ち直している」と据え置いた。「耐久消費財の買い時判断」は0.7ポイント、「暮らし向き」は0.3ポイント、「雇用環境」は0.2ポイントそれぞれ低下した。

◆30年債入札、最高落札利回り3.457%で過去最高 財政懸念根強く

・財務省が実施した30年物国債入札で、最高落札利回りは3.457%と、1999年の入札開始以降で最高となった。先行きの経済対策次第で、再び財政が拡大するとの警戒感がくすぶっている。投資家が積極的な応札を手控えたことで落札利回りが上昇した。

◆11月実質賃金2.8%減、11カ月連続マイナス 物価に賃上げ追いつかず

・厚生労働省が発表した2025年11月の毎月勤労統計調査(速報、従業員5人以上)によると、物価変動の影響を除いた実質賃金は前年同月比で2.8%減。賃金は伸びているものの物価上昇には届かず、25年1月以来11カ月連続のマイナス。1人あたりの現金給与総額は31万202円と0.5%増え、基本給にあたる所定内給与は27万41円で2.0%伸長。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆マンション修繕積立金、振込手数料など支出可能 国交省ひな型に明記

・国土交通省はマンション管理組合の修繕積立金から金融機関に支払う手数料といった費用を支出できると明確に。管理組合が参考にする管理規約のひな型を改正した。従来は積立金の管理・運用コストをどこまで支出できるか曖昧だった。4月の改正マンション管理適正化法などの施行を控え、国交省が新たな標準管理規約をまとめた。

◆「省エネコミュニケーション制度」2025年度結果公表—資源エネルギー庁

・経済産業省資源エネルギー庁はエネルギー小売事業者の省エネ情報提供状況を評価する「省エネコミュニケーション・ランキング制度」の2025年度結果を発表。対象は、家庭向けエネルギー小売り事業者。電気・都市ガス・LPガスの各分野から報告様式を提出した事業者を基に採点。取組状況を星1から星5の5段階で格付けする仕組み。

◆東京23区の新築戸建て価格8672万円、最高値更新 25年12月

・不動産調査会社の東京カンテイが発表した2025年12月の新築小規模戸建て住宅の平均希望売り出し価格は東京23区が前月比7.0%高い8672万円。調査を始めた2014年4月以降での最高値を2カ月ぶりに更新。敷地面積が50平方メートル以上100平方メートル未満の新築木造一戸建て(土地含む)の物件を対象。

《 注目商品 》

■パナソニックバスルーム、微細気泡による保湿・美髪の新提案

・入浴で全身の保湿ケアをする新提案として「Panasonic BATHROOM "Beauty care style" (パナソニックバスルーム ビューティケアスタイル)」を開始。浴槽内には「オイルヴェール酸素美泡湯」を搭載。専用の「美泡湯オイル」を約10μlに微粒化し、微細気泡とあわせてお湯に含ませる。



■ジャニス工業、洗面器のパターンオーダーを開始

・洗面器・手洗器のパターンオーダーの新ブランド「irodori(いろどり)」を開始。サイズは対応範囲内であれば自由に指定することができ、色は基本色ホワイトに加え、10種類の受注色、特注色も可能。小ロット国内生産による在庫リスク削減を実現。



■永大産業、造作風洗面に奥行450mmのコンパクトタイプ登場

・造作風洗面「アクアージュsai」「アクアージュフロート」に奥行き450mmの「コンパクトタイプ」をラインアップ。すっきりとしたフロートスタイルの洗面台。「アクアージュsai」は色やアイテムの組み合わせでオリジナルの空間をつくることできる。

